

令和6年5月 教育委員会定例会議事録

1. 日 時 令和6年5月28日（火） 午後1時00分 開会
午後2時20分 閉会
2. 件 名 河南町教育委員会定例会
3. 開催場所 河南町役場 庁舎4階 大会議室北
4. 出席委員 教 育 長 中川 修
教育長職務代理者 西川 幹雄
委 員 藤原 充
委 員 高井 美恵子
委 員 杉田 みはる
5. 事務局職員 教・育部長 谷 道広
教・育部理事兼指導主事 内山 裕生
教・育部副理事兼指導主事 柏木 俊介
教育課長 藤井 康裕
こども1ばん課長 山田 恵
生涯まなぶ課長 森 弘樹
給食センター所長 浅井 明郎

(審議内容)

教育長	早いもので、1学期の半分ぐらいが過ぎました。今日もこういう天気なのですけど、去年の6月2日、大雨が日本列島全体を襲うような感じになって、河南町においても被害が出ました。児童生徒の安全をまず何より大事に考えないといけないということで、昨年も、いろんな情報とか、いろんな状況も確認しながら対応して、学校から緊急のお迎え要請や下校時間を繰り上げて帰すという判断をした。3校とも河南町は結局そうした訳です。確認ですが、河南町の場合は、臨時休校の判断は、暴風警報が出ているかどうかということで、雨については、大雨特別警報が発令されていないと休校にはならない。 あともう1つ、河南町では山間部もありますので、土砂災害警戒警報、或いは避難指示が出ているかどうかというあたりが1つの基準になってくるとい地域性があります。 今のところまだ警報は出てないですが、この後一番ピークを迎えるのかな。学校もその辺よくわかっていて、学校と情報共有して、とにかく安全第一ということで、今後何もなければ一番いいなと思っています。 6月は梅雨時期に入ってきますので、そういう意味では、子どもの安全ということ、別の視点では、運動場に出れないとか、体育とか雨が降って、予定の行事ができないということも多々あります。 そんなときに子どものモチベーションであるとか、先生のモチベーションであるとか、その辺も、二次的には気をつけないといけないと思っているので、この6月をどう乗り越えるのか。
-----	--

	そうなってきたらもう残りわずかなので、今の段階で残り 8 週間、それをどう考えるのか。もう 8 週間しかないと思うのか、まだ 8 週間あると思うのか。 考え方としては、まだ 8 週間あると考えた上で、だからその期間に何ができるのか、4 月に立てた目標はどうか。今なら十分落ち着いて確認できるので、そういったことを含めて、また学校園には臨んで欲しいなと思っています。 今日もいくつか案件があります。またご意見をいただけたらと思いますので、どうぞよろしくお願いします。 それでは本会を始めたいと思います。令和 6 年 5 月の教育委員会定例会を開催いたします。 それではまず初めに、本日の定例会への傍聴につきまして、その申し出はございませんことをご報告いたします。 次に本日の出席者は 5 名です。定足数を満たしておりますことをご報告いたします。 次に、会議録署名委員は、河南町教育委員会会議規則第 17 条の規定により、西川委員に決定してよろしいでしょうか。
委員全員	はい。
教育長	ご異議ないようですので会議録署名委員は西川委員に決定いたしました。 それでは議事を進めさせていただきますが、本日は議案がありませんので、第 2、諸報告その他に進めさせていただきます。 まず「(1) 令和 6 年度教育委員会新規拡充事業について」、事務局に説明を求めます。
事務局	「(1) 令和 6 年度教育委員会新規拡充事業について」 資料に基づき説明
教育長	今説明がありましたが、この件について、まずはご質問等、よろしいですか。 ではないようですので、次に「(2) 河南町スポーツ推進計画(案)に係るパブリックコメントの実施結果について」、事務局から説明をお願いします。
事務局	「(2) 河南町スポーツ推進計画(案)に係るパブリックコメントの実施結果について」 資料に基づき説明
教育長	この件について何かご質問等ございますか。 ではないようですので、「(3) その他」に進めさせていただきますが、まずは事務局から何かありますか。
事務局	「中学生の異文化体験型研修事業」及び「イングリッシュキャンプ」について 資料に基づき説明

教育長	去年、この場でもご意見いただいた事後の報告など、検討中ですので、よろしくお願いします。 他、何かありますか。
事務局	2点、報告させていただきます。 まず1点目、河南町の副町長についてです。 大阪府の元府民文化部長の江島芳孝さんが、副町長に15日付で就任されます。 2点目です。万博の件ですけれども、事故とか、或いは休憩場所がないとか、ネガティブな報道が出ていますが、河南町としましては、大阪府から、5月末までに、3候補ほど希望日時を入れて欲しいという依頼がありました。いろんな情報があれば一番いいのですけれども、今、この日時等を入れておかないと、暑くない、適した日に行きたいと思って後から申し込んだとしてもなかなか難しいので、日時等を各学校で対応いただくという形で準備の方を進めております。 また、いろいろと報道で言われている移動手段とか、場所の提供とか会場内の休憩場所とか、そういうことにつきましては、府の町村教育長会とか、府の都市教育長協議会の方から、府の教育委員会の教育長の方に要望を出させていただいております。 以上です。
教育長	万博についてはわからないことが今の段階では多いので、疑問に思うところは要望を挙げているので、その回答を待って、何より、今日冒頭お話ししましたけど、子どもの安全は大事だし、校外学習の最終決定権は学校に当然ありますので、町が決めるとか府が決めるものではない。こういう機会なので、府の無料招待はある意味ありがたいと思っていますし、懸念するようなことが払拭されればいいのかなと思っています。 この件について何かありますか。 よろしいですか。また、わかり次第、この場でも共有していきたいと思いますので、よろしくお願いします。 他に、KANAN BEAMについて、よろしいですか。
委員	お手元に僕が作った文章を配らせていただいたのですが、以前、教育長の方からKANAN BEAMについて教えていただいて、非常に目標がはっきりして、目指すところがはっきりしてきて、これはいいなあと、是非とも実現できたらいいと思いました。 ただ、その中に、「つなげる」という言葉を入れていただいている、それぞれの組織がうまく連携してるよという図があったのですが、そのつなげる、或いはつながるとか、つなぐとか、いろいろ表現はあるのですが、つなげ

るというのはかなり指導的要素が、強いかなというふうに思います。だから、あえてここでは僕の方でもつなげると、むしろつながるとか、つなぐというのがいい場合もあるのですが、あえてつなげるという表現をさせていただきました。

これは僕のとらえ方ですので、ご意見があればまた後で言っていたらと思うのですが、まず最初にKANAN BEAMについての分析ということを書いているのですが、KANAN BEAMは、自己のよさや、持てる力を存分に発揮し、豊かな自己実現を図ることというのが、僕なりのとらえです。いろんな自分の特技を生かして、豊かに自己実現、頑張ってきてよかったということを、子どもたちが実感できれば一番いい。

ただそれをバックアップするためには、つなげるということがとても大事。例えば、頑張っても、周りの支えとか、或いは友達の手支えとか、家族の手支えとか、もちろん学校の先生方とか、すべての人とやっぱしっかりつながってこそ、そういう力が発揮できるということで、つなげるの意図としては、他者との関わりを大切に、潤いのある豊かな生活を実現することが一番大事。そういうバックボーンがあって初めてKANAN BEAMが生きてくるととらえました。

次に、つなげるということについてはいろんな要素があるように思うのですが、教育的観点から考えてみました。

視点1として、人と人、心と心をつなげる。学校教育の基本と思っています。子ども達がいろんな人とつながっていく、或いは子ども同士つながっていく、まさに共生社会の原点であるように思っています。

中身としては、相互の心の触れ合いを深め、受容的で温かい人間関係を醸成していく。子ども同士が、A君に会ってよかったとか、友達でよかったというような関係を中学校、小学校いろんな段階で、子どもたちが培ってくれたらというふうに思っています。

特に学校は、集団活動を基本としていますので、子どもたちが集団活動を通して有用感、要するにみんなの役に立っているとか、自分が頑張ったことで、友達が高く評価してくれたとか、或いは先生方やおうちの方にほめてもらったとか、そういうような集団活動を通して、有用感を味わっていくということはとても大事と違うかなあと。或いは、あわせて達成感とか、或いは満足感とか、それは何でできるかというと、また、心の触れ合いがあるからとか、友達関係がしっかりつながっているからとか、そういう観点で考えてみました。

下には寛容な風土とか、或いは心地よい居場所や学びの場の提供、これは学校教育の一番基本であるように思っています。いつも、子ども達にとって、学校が心地良い場所になっているのかどうか、しっかり友達と学ぶことができる場になっているのかどうかということで、これは、僕が現役の時から大事にしていることで、まず4月の初めに先生方に、節目節目で、自分の学級の子どもが、本当にすべての子が、居心地よく生活できているかどうかを点検して欲しいということをお願いしました。

というのは学級の中には、スポーツの苦手な子、勉強はよくできるけども、なかなか意見を言わない子、いつもおとなしくてそれでも黙々と頑張ってる子、いろんな子どもがいるのですけども、その中から取り残されている子がいないかどうか、これは、指導者がしっかりと子どもたち全体を見る必要があるといつも思っていました。だから、学期ごととか、或いはいろんな機会を通して、本当に自分たちのクラスの子ども達が居心地のいい場所になってるかどうかの点検を、子ども達と話をしながら、調査とかそういう大層なものでなしに、日頃の子ども達の様子を見ながらやっておりました。だから、ここで一番大事にしたいのは子ども達同士がしっかりつながって、学校生活を送っていく。併せて、担任の先生も、しっかり子どもとつながって勉強をやっていく、或いは様々な活動をしていくことだと思いました。

2つ目は、皆さん方にはひょっとしたら馴染みがないかも知りませんが、新しいステージに向けて、行動プロセスにつなげるという表現なのですけども、皆さんご存じのように、例えば河南中学校の卒業式のときに、挨拶運動について、子ども達が発表していました。で、例えば、挨拶運動が河南中学校で定着しているのは、例えば生徒会を中心に、そういうことについて話し合いをし、そしてみんなで決めて、実践に移すという、こういうサイクルが大事で、学校の中で様々な課題を子ども達が見つけて、その課題について、みんなで1度相談して、こんなことやろうということで決めて、次に、その結果を次に生かしていくという、こういうサイクルなのですけども、こういうサイクルを積み重ねていくことによって、非常に子ども達にとってはより価値の高い新しいステージへとつないでいくことができると思っています。

そこに、らせん階段というのを書いているのですけども、らせん階段というのは皆さんご存じのようにグルグル回ることによって、上に上がっていくのです。だから、最初はここから一から、みんなで見つけて考えて相談して活動して、それをどんどんつなげていくと、どんどん上により価値の高いところを目指していく、学校生活がさらに良くなっていくというような考え方です。

で、これは単に、例えば挨拶運動の生徒会活動の手法じゃなしに、普段の学習でも使えるのです。

例えば、総合的な学習で発表しようと、例えば環境について発表しようといってグループで相談したときに、そういう時にこそ、みんなで課題を見つける、考える、そして発表することで子ども達の中にしっかり根づくことによって、こういう活動をしっかりつなげていくことによって、我々の生活が向上したり、或いは学習の幅が広がったりするということを、子ども達に伝えてあげていただきたいという思いで、ここに書きましたように、要するに新しいステージに向けて、活動プロセスを次々とつなげていくということが、とても大事と思いました。

KANAN BEAMの「つなげる」に、こういう意図でもつなげる、或いはつながるということを使えるということで、見ていただけたらと思います。

視点3番、これもとても大事なことで、地域の人々や保護者につながるとい

う観点なのです。

子ども達に、或いは生徒に地域の一員であることの自覚と誇りを養う。郷土を愛し、大切に思う、そういう力って、とても大事だと思っています。で、かなん桜小学校で、芋煮会を実施していただいています。こういう時こそ、地域の一員であるという自覚を、子ども達に培う絶好の場と思っています。

この前も、委員が、もう少し地域に返す言葉が、芋煮会であつたらいいなという話をされておられました。

実は寛弘寺の老人会の方で、里芋を畑を耕して、育てておられる90歳近いおじいさんが僕の近くにおられまして、いつも夏になったら草引きに行ったりされる。その方がつい最近亡くなられたのですけども、芋煮会のことを僕にいつも報告してくれました。「一遍また食べに来てや」と言っていたくおかげで僕も食べに行かせていただきました。その人がおっしゃるのは、「この頃、子ども達が声かけてくれる、挨拶してくれたり、お芋さん美味しかったって言うてくれたり、めっちゃめっちゃうれしい」と。

要するに地域の人々と子ども達が互いに気持ちをお返ししあう。こういうつながりを大切にすること、地域の人とどうつながっていったらいいかということを考えていくのがいいということを感じました。

昔、昭和30年代から40年代、農業を生業にしてる方がたくさんおられて、そういう時代は、自然に地域でつながっていたのです。

例えば、今田植えシーズンですけど、昔は手で田植えされてる時はみんな集まって田植えを手伝ったりして、子どもなりにそういうのをみんな見ていましたが、そういう機会が減ってきてるように思います。むしろ町会から離れられる人が増えてきているように、つながりが薄くなってきているのが、僕はとても残念だと思っています。

しっかり河南町の良さを子ども達に、今の間につないでおけば、河南町から離れても、また河南町で何かあったときには帰ってきてくれるだろうし、この前の能登のように、災害があれば、いち早く駆けつけて救助をしてくれたり、別に河南町に住まなくても、離れても、河南町のことを思ってくれる子どもができるのではないかと思います。

そういう意味で、地域の人々としっかりつながっていき、自分のふるさとを大切にできるそういう子ども達になって欲しいと思いました。

次に、保護者につながる分なのですけども、この前、石川こども園を訪問させていただいた時に、石川こども園の園長先生が、「ホメ育」で講師の先生を呼んで、保護者の方に話をさせていただいたという中で、相当多くの保護者の方が来られて、話を聞いていただいたと言われるのです。大事なことであれば、必ず保護者の方も来られるように思うのです。残念だったのが、かなん桜小学校に行った時、もう家庭訪問は希望制にしますとか、林間学校の説明会をリモートでやりますとか、それはそれで悪くはないのですけども、学校として、保護者とこのことについてはしっかり勉強しなければいけないということについては、対面で話をするようなことが大切ではないか。働き方改革とか、保護者は

忙しいということもわからないことはないのですけども。

でも、石川こども園の取り組みを見て、これは大事だなと思えば、必ず保護者の方がたくさん来られるということを強く感じました。

中学校でも、SNS の研修会をしてくれていると聞いています。保護者にもしっかり受けてもらえればいいですね。なぜかと言うと、自分の子どもが犯罪に巻き込まれる可能性があったり、或いは、巻き込む方側になってしまったりとか、いろんな形が考えられるので、しっかり保護者との連携を強めていかなければいけないと感じています。

次に、レイマンコントロールの充実と書いていますけども、レイマンコントロールというのはご存じのように、地域とか、或いは保護者の意見をこういう教育委員会でこういう場に反映していくということなので、そういう地域の人々の声をしっかり受けとめて、地域とつながっていくということも、大事と思いました。

最後は、これは前も教育長から十分説明があったと思うのですけども、私達も学校訪問をさせていただいて、見ることによってわかることがいっぱいあって、とても勉強になりました。去年よりもまた今年、違った視点で子ども達の様子を見ることができました。或いは、中村こども園なんかは、園長先生も随分ご苦労されているということも聞いて、また石川こども園とは違う課題も持っておられるということも十分わかったし、それに関わってどういう形で私達も支援できるか、或いは応援できるかということも考える機会になりました。

教育委員会を軸として、各組織をこれからつないでいこうというのであれば、有機的につながって、そして、課題を共有し、知恵を出し合うという言葉を使ったのですけども、縦割りになっていて、同じ教育委員会の行事であっても、こども1ばん課のものと教育課のものとは離れている。でも、共通に関わるのは子ども達であって、両方から関わったらいいいのでは、というなことを時々感じるがありました。

今日もイングリッシュキャンプの説明があったのですけども、僕も毎回、イングリッシュキャンプに参加させていただくのですけども、学校の先生方の顔が見えないというのが残念なのです。自分の生徒が出ているのなら、一遍見に行こうとか、そこは学校は学校、行政は行政ということで、壁があるのかもしれないけれども、そういうところでつながっていったら、先生方も、子どもに対する理解も深まるのではないかと、子どもの頑張っている様子を学校に持ち帰っていただくことができるのではないかと感じました。

せっかく教育長の方からいい提案をしていただいたので、僕なりにつながるということについて分析をして、皆さん方にもお話をさせていただいたのですけども、要は、子ども達が、冒頭申し上げましたように、学校の中で、伸び伸びと心地よく生活してくれることが一番なのです。

僕が若いときに、保護者からこんなことをよく聞いたのです。

「先生うちの子、勉強も出来へんやんちゃやし、大変やと思うけど、いいところ1つあるねん。学校が大好きで、少々風邪ひいてたかって、休みなさいと言

教育長	うたかてね、学校行きますねん。何で行くんって聞いたら、友達と遊べるからって言うんです。」 今そういう子どもが少なくなってるんじゃないかな。少ししんどくなったら、もう休むってなってるんじゃないかな。昔の子どもの方が、学校に対するワクワク感を持っていて、今日は友達同士で野球するとか、ドッジボールするとか、楽しみに来てる子がいっぱいいた。2時間目終わる時間が延びたら、子ども達が文句言うのですよ。次、野球で、自分打つ順番が回ってきてるって言う。子ども達は、そういう学校生活の中で、ワクワクしながら生活してるということもあるので、そういう学校を目指してやっていただけたら嬉しいと常々思っています。 決してこれをKANAN BEAMに載せるとかではなく、こういうバックボーンを大切することによって、KANAN BEAMが生きていくのではないかと感じましたので、ご報告です。 西川委員はこうしてレジュメも作っていただいて、こうしてKANAN BEAMから、個人個人がいろんなことを思いついていただくということは嬉しいですし、今どんどん肉付けしていこうと思ってるのですよ。 このKANAN BEAMの考え方のベース、ぶれないものは、「一人ひとり人が輝き、笑顔あふれる人づくり」です。それを目指すための方法論は幾つあってもいいし、その中で、ベストとエンパワーメントとアクションとメイクアップを意識してもらおうと、どんな話にもつながると思っているので、今日は本当に西川委員から、いろいろ教えていただきましたので、また、お考えを共有できたらと思います。 このあと総合教育会議もありますので、ありがとうございました。 次に、情報提供案件があります。 これにつきましては個人情報との関係がありますので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項の規定に基づきまして、これより非公開としたいと思います。 お諮りします。 「情報提供案件について」を非公開で行うことに賛成の方の挙手をお願いいたします。
	———— 全員挙手 ————
	挙手全員と認めます。 これによりまして、「情報提供案件について」は非公開とすることにしました。会場の閉鎖をお願いします。
	———— 会場封鎖 ————

教育長	会場の封鎖を確認しました。 ※※※※※※※ 以下 非公開 ※※※※※※※ では、以上をもちまして本日の議事日程はすべて議了いたしました。これをもちまして5月の教育委員会定例会を閉会いたします。次回開催日は、6月の26日水曜日10時からと決めさせていただいております。 7月定例会は、令和6年7月31日（水）9時半からの開催といたしますので、よろしくお願いいたします。
-----	---

令和 年 月 日

教 育 長 名

署名委員名